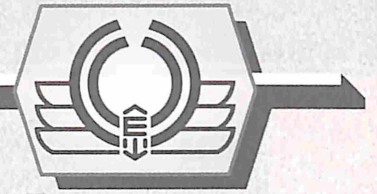


広報かなぎ

平成16年2月号 No.454



どっちが早いのか？

1月24日、金木幼稚園で行われた「親子ふれあいの日」での、なぞなぞかるた遊び。

町の花



さくら

町の鳥



ひばり

町の木



ひば

Q1 財政事情というのはどうなんですか。金がないものが何十人集まろうと貧乏人なわけですよね。そこで合併すれば合併交付金が出ると。ただ、それだけにつられていような気がします。金は使えばなくなる。その前に何かすることがあるんじゃないかと言いたいわけですよ。私の言いたいのは財政事情が悪い。合併はなんですか。財政のスリム化なんだよね。それをどのようにしてやるのか。今日こういうことをやるというのであれば、我々がその資料を見て何か勉強できる。質問して考える時間がありましたけれども、ここでぼんと渡されたって、財政が何年にすれば赤字になると言ったって、見たって分かりませんよ。我々素人は。だからそういうところを町民に対して配慮というか、それはしていただきたい。目的はあくまでも健全財政なわけですから。その辺を考えて、どうせ貧乏するんだったら身内で貧乏していた方がさっぱりする。だれだってよそのものの面倒見たくない。それは枠組みとして一緒にやっていきましょうというのなら大局的に考えてそうしなければならぬというのは分かりますが、みすみす交付金使った後は何も残らないと。言いたかったのはこういう時間を割いて皆さん来ているわけですから、合併懇談会というのはこういう問題を出す、話し合いたいというのなら、たたき台の資料だけは事前に町民に配布するような形をとっていただきたい。

A おっしゃるのもっともです。資料不足で申し訳ないと思っております。私も市浦村や中里町でも、いや、金木町でももっとだめだよと、やはり自分の町、村をよく思っていると思います。むこうから見た場合は金木町のここが悪いとかいっぱいあると思います。ですから、そういう悪いところを言っていたらきりが無いと思いますので、金木町も反省しながら私はこれからは慎重に合併を進めていきたいと思っております。この次も必ず資料を提供しますのでよろしくお願ひします。只今質問の中で交付金と言いましたが、これは私たちの説明不足もあるかと思ひます。合併の財政支援は確かにありますけれども、これは全部補助金じゃなくて、借金なわけです。有利なお金を貸しますよというのが150億円なわけです。150億円の補助金であればバンザイなんですけれども、借金なわけです。ただ交付税算入という交付税元利償還金の70%ぐらいは入れてよこしますよということで全部借金なわけです。だからその辺は誤解している向きもありますので、決して補助金ではありません。借金ですのよろしくお願ひします。

市町村合併町民懇談会

Q2 五所川原市との合併は反対しているわけではないけれども、五所川原市にどの程度の資産と負債があるのか、また、1人あたりの借金がどのぐらいなのか。合併してもいいが、あまりにも五所川原の方がかけはなれた大きな負債を持っているのであればわざわざ金木でその負債をかぶることはないと思われるので、もう少し資料を出していただいて、再度そのようなことでお話できればいいと思っております。

A 今の意見もだいぶございます。特に中里町と金木町は病院も2町で経営していますので、当然選択肢の一つに入ってくると思います。でもそこで一番懸念しているのは、まだ農林業関係の協議に入っていないけれども、金木町は県下でも転作の一番いい方で中里町が残念ながら最下位でありますので、その協議になったら一紛糾はあるのではないかなという心配を持っております。

Q3 金木町はシミュレーションから合併しないといけないようなデータですが、これは果たしてそのとおりなのかどうか。合併特例債150億の内訳が庁舎50億、消防設備25億で75億。あとの75億はいろいろ調整できると聞いたが間違いはないですか。今月まで合併費用で約1億2千万円すでに使ったとすると、もし金木町が離脱した場合にその負担はどこで払うのか。2町2村で按分するのか、それとも金木町が離脱したから1億2千万円を金木町が払うということになるのか。

A 国の交付税減額などを想定しますと、合併しないとしたら議員数を半減し4役の報酬、給料、あるいは職員の給料などもカット、町民に対するサービスもほとんど我慢してもらわなければ単独では無理ではないか。また単独の場合のシミュレーションでは財政再建団体に転落するので当然新規の事業もできなくなり、さらに来年度から約3億円の収入が少なくなることから、単独では非常に厳しいのではと思っております。庁舎50億、消防25億という話は建設小委員会の中の計画で、最終的には協議会で決定したものではありません。150億の特例債は、4町村の借金などから計算してみますと、半分の75億しか使えないと思ひます。経費1億2千万円というのは人件費を含めてのことだと思ひます。今年度の合併協議会の予算3,800万円のうち1,300万円ほどの余りを各町村に負担割合に応じて返す予定でおりますので、これ以外の経費の負担については今のところ想定されていません。

津軽北部四町村合併協議会の解散により、新たな合併の枠組みを模索するために一月二十日、中央公民館で町民約九十人が参加して行われた市町村合併町民懇談会での冒頭、鳴海町長は今までのいきさつを説明した後「過去のことは一切忘れて、みんなでどうしたら町民が幸せになれるか、それを最重要として考えていきたい」とあいさつ。続いて宮崎合併対策室長が資料などの説明後、質疑応答が行われましたので、内容を抜粋要約して紹介します。



Q4 この前にアンケートで、金木町は一体何対何の割合であったのでしょうか。将来合併について参考にしたいとしますので、五所川原の方と4町村の比率を教えてください。

A 合併のアンケートは五所川原との合併の方が20ポイント下回る、4町村が50%と五所川原市を含む合併が30%という結果でございました。

Q5 私個人としては五所川原と一緒にの方がいいと思っております。それは、まず、経済効果として観光資源とか考えられます。五所川原は立佞武多、金木は太宰治、芦野公園、斜陽館、三味線会館など、中里、市浦にも観光資源あります。しじみ貝だとか。小泊については唯一漁業をしております。これをやっぱりフルに活用していけば金木の経済効果があると思うんですよ。やはりこれからの地方交付税減額、住民の高齢化、若者の県外流出、少子化本当に真剣に考えなければならぬことなんです。我々もそうなんですけれども、これからの子供達が当然県外に流出していくと思うんですよ。将来必ず戻ってこれるような素晴らしい町づくりをしていくことが我々の責務だと思うんです。そこをやっぱり考えて合併を進めていかなければならないと思っております。それからもう1つ、名前について既存の地域の名前をとれば、必ずしこりが残ると思うんですよ。これからの子どもたちのことを考えた場合、当然子供たちが帰ってこれるような町づくりにするためにはまず名前だと思うんですよ。誇りを持てる名前にするためにはやっぱり最後にアンケートをとった方がいい。高校を卒業する生徒達に若干説明してアンケートをとってもいいんじゃないかと思えます。なぜかといいますと、私は今回の十三湖町、私も投票したんですけれども、十三湖町は反対だったんです。というのはその後で県外にいる友人、知人に感想を聞きました。はっきり言って笑われました。なんで、金木がこのように有名になったのに十三湖町になったのかと。それからうちの子供にも聞いて、「おめの友達なんて言ったらば」と聞いたら「笑われたよ」と。もっと寛大な気持ちで子どもたちのことを考えていい名前を選択してほしかったなと私は思います。

A 本当に貴重なご意見だと思います。ご承知のとおり通勤、通学、医療、買い物など生活圏は完全に五所川原だと思っております。また、名前も本当に私は申し訳ないなと思っておりました。今言ったとおり、その町村のこだわる名前をつけたならば、例えば、太宰町に決まっても私はまったくこのとおりだと思います。他町村から批判が出ると思います。合併の離脱も市浦村では金木町では町名が嫌なので離脱したんだというデマもございまして。ですから私は全国の協議会が白紙になっているのは、本庁舎の問題、町名の問題が一番解散になっている理由でありますので、私はこれからどういう枠組みになるか知りませんが、町名も慎重に慎重を重ねてやるべきだと思います。貴重なご意見ありがとうございました。



金木町民が幸せになれる

Q6 合併の趣旨は、均衡ある財政、組織の簡素化、行政サービスの向上というこの3つに尽きるのではないかと。今回の合併懇談会において枠組みの意見を参考にしたいと町長から盛んに申されましたけれども、私の意見を述べるに当たっても資料が全然ないもので、やはりこの懇談会も絵に描いた餅かなという感じがしてなりません。これからは合併するに当たってもいろいろ3町村になるのか、五所川原市になるのか。私自身は五所川原とかなという気がしますが、町長自身の考え方、今までの資料とか会議等に十分に出席して熟知していると思っておりますので、そこら辺のお話をされてもいいのではないかと感じます。

A 今日は協議会の解散経緯の説明会でありますので、資料不足はおわびします。これから何回も皆さんの声を聞きながら、その時は例えば五所川原市を入れた場合、3町村が一緒に行った場合の財政シミュレーションを提供できると思います。もうちょっと待ってください。そして、私の判断ということですが、私は助役、収入役と3人で懇談しましたがアンケートの結果が出る前までは、病院機能再編やゴミの処分場などを考えると私は西北五がもっともいいなという話をしてきました。でも、アンケート結果を見たらやはり大きな合併よりも町民は文化・伝統を考えた金木以北を望んでいると心に決めて4町村で取り組んだ経緯でございまして。市浦村に対して、私はしこりを一切持ちません。私は町民がどんな判断をするのか、時間的な余裕があるかどうか知りませんが、アンケートをとって、幅広くみんなの意見を聞きながら、後悔のないような合併。もちろん、町民代表の議会が一番でありますけれども、みんなの声を吸い上げながら失敗のないようよりよい合併を目指していくしか私は今答えがなかなか出ません。

Q7 合併協議会の予算が2億ほどかかっていると聞きますがどうなのでしょう。今まででいくぐらいかかっているのか、その内容はどのような具合になっていますか。

A 協議会予算は、任意から法定まででトータルで予算は4,900万円ほどです。2億円というのは職員の人件費を含めてではないかと思えます。今年度の予算は3,800万円ほどで1月のはじめに事業をやめておりますので、約2,500万円ほどです。一番大きいのは業者委託の事務事業調整、完成直前までいっています新町建設計画、それとコンピュータ関係の調査が主なものです。

Q8 例えば圏外で合併しているところがありますよね。青森は隣ですからもう一度話し合ってみたら。私は青森と合併した方がいいと思うんです。将来的に見て。金木には太宰があるでしょう。これは世界的に有名なんですよ。これはこれからは五所川原よりも青森に行った方がいいと思います。

A 当然、選択肢の一つに入ります。ですからこれからもう一度アンケートの結果などを踏まえながら私はやっていきたいと思っています。考えがみんな違うと思いますので。

Q9 ひとつお願いなのですが、今回、中央公民館で懇談会を開いているわけですが、町内各コミュニティーセンターで地域住民に密着した懇談会を行ってもらえれば大変地域住民もわかると思います。これは昨年2町2村の合併に先立ちましてアンケート調査を取ったわけですが、五所川原との合併のパーセントが低いのは五所川原と合併した場合のシミュレーションはどうだというきめの細かい説明不足ではなかったのかなと感じていますので、そういう面で皆さんに詳しくできるのであれば、あちこちで懇談会や説明会を行えばまたパーセントは違っていたかもしれません。町長もそのうちまた開くということですので、できればそのような形式になれば、絶対違った一面が出てくるのではないかと思いますがいかがでしょうか。

A 今回はとりあえず解散の説明をということでこういう形をとりました。これから相談しながら進めていきたいと思っています。シミュレーションの説明不足は確かにそれはあると思います。これからできるだけお年寄りの方でも分かるような資料を検討していきたいと思っています。

Q10 合併しない場合と4町村合併後の財政シミュレーションがありますが、24年になれば赤字でなくなるというのは何を減らしてこうなるのか。どこと町村合併になるかわからないが、あと特例債適用まで1年ちょっとです。仮に五所川原について1からやり直すとすれば間に合うのか。3町村で確認事項を利用してやっていけないものか。

A このシミュレーションのグラフは、地方交付税が年々減っていくということと、職員を削減していくということによって財政が好転するという内容です。事業については平常やっているものだけしか見込んでません。それから時間的な余裕については、今国会に合併特例法の改正案が提案される見通しで、来年3月の末までに合併しなければ恩恵は受けられませんという法律ですけれども、これが1年延長されるという見込みでございますので、これからやっていっても間に合うのではないかなと思います。



新しい合併枠組みについて

Q11 合併協議会での確認事項は解散によってどうなるのか。また今後の合併に生かされるのか。市浦村が外れた場合であれば3町村の財政シミュレーションを提示すれば町民はもっと理解を深めるのではないだろうか。それに五所川原との財政シミュレーションはどのようになるのかが町民の中では一番肝心な部分なのではないか。合併アンケートについて行政連絡委員任せは問題があるのではと感じていますので、今後なされる場合ご検討していただきたい。

A 今までの確認事項は解散によってすべて白紙になると思いますが、資料はこれからの枠組みの中での貴重な参考資料となると思いますので、私はこの解散をいい意味で今後に生かしていきたいと思っております。枠組みのシミュレーションについては五所川原の場合はどうなのか、また、中里、小泊、金木でやった場合どうなるのか、今後資料を集めて今回の轍を踏まないよう皆さんに報告しながら、また、アンケートでそういう無理な点があったらもう一度検討してみたいと思いますのでよろしく申し上げます。今まで作った資料はすべて保存していますので、例えば3町村でやるとすればすぐに活用できますし、五所川原とやるという場合にも活用できます。

Q12 噂だけれども、五所川原市は借金が余ってしまっていると。五所川原から見ると金木はない。また、市浦村が一番多いということを知りたく、これは人口割でいくとどうなるのですか。五所川原を考えなくても青森を考えてもよろしいのではないのでしょうか。

A 市浦、小泊は約40～50億、金木、中里は約80億の起債残高があります。人口割でいきますと金木の人口が11,000人に市浦は2,900人ということから小さい町、村ほど一人あたりの借金が多いということになります。返済は16年度がピークでだんだん減っていくという状況です。五所川原等の資料については、これから五所川原市といろいろ情報交換しながらその作った資料を皆様方に情報提供していくということを考えてございます。青森市は可能性としてはありますけれども、結婚と同じようにこっちで好きでも、相手が全然反応示さないのであれば、それは無理ではないかなと思います。ただ、会議の席上町長が青森市長に一度お話しした経緯はあるということですが、向こうでは全然乗ってこなかったということを知っています。

Q13 私としてはできるならば金木町1つでやっていきたいという気持ちですが、様々な意見を聞いてみますと今後は単独ではとても無理だという話でありますので、次に考えるのは五所川原でなければならないと思います。しかし、金木だけで五所川原に行くよりもやはり今まで一緒に話し合ってきた方々を誘って五所川原に行けたらなと本当に今思っております。そして、今まで様々な意見が出ましたが、ちょっと資料不足だと思います。というのは、3町村の場合のシミュレーション、五所川原との合併のシミュレーション、そして3町村と五所川原のシミュレーションなどを作ってもう一度この懇談会を開いていただきたいと思っております。

A 次回は五所川原や3町村、いろんな選択肢を考えながら資料を出します。必ず。ですから、ちょっと時間を貸してください。

Q14 先程から財政のことばかり言って、もっと違ったものがあるかと思えます。財政は切詰めて人件費を節約するとかいくらでもできる。その他に代々伝わってきている郷土芸能とかの問題に関しても議論してもいいんじゃないかと。新聞で見ますと、合併のおかげで昔からの百万遍とか荒馬がなくなったとか、昭和30年の合併後なくなったという事がありますし、やはり昔から伝わってきた郷土芸能とか文化とかという面についても議論して頂きたい。

A まったくそのとおりだと思います。そういう文化とか芸能も残すということで、小さい合併を町民が選んだのかなという認識もっておりますので、当然それらもこれからは検討していかなければいけないと思います。大事なものは残しておくべきだと思います。

Q15 今日おいでになっていない町民もあるわけですので、合併問題にすれば、どういう合併が好ましいのか、どういう合併がいいのか、町民主導で決めざるを得ないわけですが、その点を十分ご承知いただいて、この合併についてある程度資料がなければ判断できないわけです。そういう資料なるものを添付されて再度またはり住民からアンケートをとるようお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

A この次の合併はやはり相手もありますので、こちらがいくら望んでも向こうがOKしなければならないので、慎重に町村長同士が連絡を取りながら、できない枠組みを皆さんに資料として提供するのもだめだと思いますので、実現可能な枠組みを提供しなければならないと思います。もちろんそう決まった場合はアンケートの資料は提供しながら、皆さんの判断を仰ぎたいと思います。

意見を出し合いみんなで考えよう

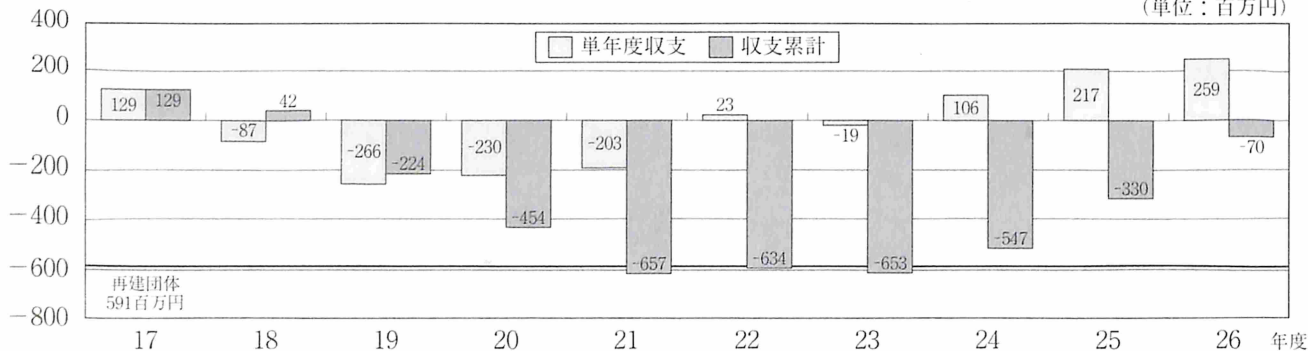


Q16 最近の新聞を見ますと、秋田県で自立するのであれば自立計画案を出しなさいというようなきつい文書で通達を促し秋田県で非常に市民が立腹しているようなことが書いていました。ということは、合併云々については合併しようがしまいが地域住民が決めることであって、国、ならびに県があまりにもそれに対して関与する必要はないのではないかとそういうことも書いておりますが、もしも、合併しないで自立していくということになれば、そういう自立計画案を出すような通達はあるもののでしょうか、お聞きしたいと思います。

A お答えいたします。今のところはそういうことはございませんけれども、合併特例法は来年の3月で切れるわけですが、それ以降の法律として新しい法律ができる見込みです。その中には県でも合併しない町村についてはいろいろ介入できるということになる見通しでございます。

金木町財政推計「合併しない場合のシミュレーション」

(単位：百万円)



※平成15年10月現在の資料です。平成16年度から地方交付税が約3億円削減される見込みであり、今以上に財政は厳しくなります。

表彰おめでとうございます

金木柔道スポーツ少年団



青森県スポーツ少年団表彰

金木柔道スポーツ少年団が多年にわたる活動が認められ、平成15年度青森県スポーツ少年団表彰を、また同少年団監督の金本敬夫さんが同指導者表彰を受賞しました。

1月19日、受賞報告に訪れた金本さんと金木小6年の川嶋一磨くんと羽賀大介くんらに鳴海町長が「スポーツを行っているとお精神力が伴う。これからも柔道がんばってください」と激励。金本さんは「これからも子どもたちを強くしていきながら、精神力も強くしていきたいと思っております」と応えていました。

嘉瀬小学校



ボランティア功労者厚生労働大臣表彰

嘉瀬小学校(校長=今信夫)が15年間の障害者や高齢者との交流と各種ボランティア活動が認められ、平成15年度ボランティア功労者厚生労働大臣表彰を受賞しました。

1月13日、県庁での伝達式を終えた今校長に児童会長の松川和樹くんと同副会長の鳴海希望さんが町長室を訪れ鳴海町長に受賞報告をしました。

受賞して松川くんと鳴海さんは「賞状をもらえてうれしいです。これからもボランティア活動がんばっていききたい」と話していました。

川倉小学校体験活動支援委員会



青森県いのち育む食の体験学習功労者表彰

川倉小学校の体験活動支援委員会(代表=大佐賀尋嗣)が1月22日、青森市で行われた「青森「食」と「いのち」のフォーラム」で、青森県「いのち育む」食の体験学習功労者として表彰されました。

同委員会は、平成13年度から始めた児童や地域住民を対象としたそばの栽培、そば打ちなどの体験学習の支援活動が認められ、今回の受賞となりました。

大佐賀代表は「こんな大きい賞をいただいて大変光栄です。会員皆さんの努力の賜物です」と話していました。

警察協力者



警察協力功労者表彰

1月21日、金木警察署で平成15年度警察協力功労者・優良警察職員表彰式が行われ、当町から4団体、8個人が警察協力功労者として表彰されました。安心安全町づくりのために、それぞれの立場で積極的に警察活動を支援し協力により表彰された方々は次のとおりです。

◇団体：金木ロータリークラブ・喜良市駐在所連絡協議会・西北五遊技業協同組合・みちのく銀行金木支店グリーンクラブ

◇個人：石戸谷弘子・伊丸岡秀昭・葛西文昭・黒滝弥生・中谷時正・野宮洋治・福長勝義・藤元兼五郎